

韓国海外研修を終えて

国際交流委員 赤井 陽彦

1 はじめに

今回、平成 25 年度から数え第 4 回目の韓国海外研修を実施した。韓国研修への申し込みは 1 年生 10 名、2 年生 6 名で、その全員が事前研修等を経て研修当日を迎える予定だったが、出発前夜、1 名の生徒がインフルエンザ発病のため不参加となり 15 名の参加となった。この時期、全国でインフルエンザウイルスが猛威を振るい、研修期間中も引率する先生方は生徒達の健康観察・管理を怠らないよう細心の注意を払った。

しかし研修では好天に恵まれ、体調不良を申し出る生徒もなく無事 5 日間の引率を終えることができた。これもひとえに同行の団長川松先生、現地での生徒の健康管理に努めて頂いた大津先生や参加生徒の募集や渡航手続等にご尽力を頂いた寺田先生によるところが大きい。紙面をお借りして感謝申し上げたい。

2 事前研修

- 第 1 回(12/14・金) 韓国語研修(李先生)
韓国語での挨拶・自己紹介及び日常会話を学習
- 第 2 回(12/17・月) 講義(国士舘大学 21 世紀アジア学部 河先 俊子教授)
韓国の歴史・文化等の学習
- 第 3 回(12/20・木) 行程表作成
3 グループに分かれ現地大学生との市内研修行程表作成
- 第 4 回(1/18・金) 結団式
諸注意等の再確認

3 研修旅行(1/21・月～1/25・金)

第 1 日目：集合は常磐線ひたち野うしく駅東口午前 8:30 集合だったが全員定刻より早く集合した。その姿に、この研修に対する熱い想いが感じられた。成田空港から仁川空港まで約 2 時間 20 分のフライトを経て入国審査場へ。この日は外国人観光客が多く、韓国人と外国人の審査ゲートの案内表示も確認できない混雑の中トラブル発生。審査ゲートに向かう列に本校の生徒が数名いないことに気付き、「チョソハムニダ」(申し訳ありません)を連呼し列の前後を懸命に搜索。すでに 2 人の引率者は入国している状況。周りを注視すること約 12 分。列から離れた 200m 先に生徒 5 名を発見し無事入国。生徒に事情を尋ねると、空港職員に誘導されたことが混雑を避けられると思い勘違いしたようである。その後バスにて移動し金剛山でサムギョブサル(豚バラ肉)を堪能し、宿泊先である梨泰院(イテウォン) CROWN HOTEL に到着。就寝前のミーティングでは、指示・伝達の発信は引率者からであることを再確認し就寝した。

第 2 日目：ホテルから高速道路を利用し 1 時間程度の烏頭山(オドゥサン)統一展望台へ。統一展望台は、北朝鮮から韓国に流れる臨津江(イムジンガン)と韓国ソウルの真ん中を流れる漢江(ハンガン)の合流地点にある高台にあり、展望台から北朝鮮開豊(ケプン)対岸までは 2.1km。展望台から北朝鮮を眼下に一望した生徒達は、その距離の近さと南と北の風景の違いに驚きを隠せない様子。現地ガイドのソボンヒさんの説明では、「南の山には松の木が群生、北側は松の木がほとんどない。その理由は人民を監視する目的と樹木を燃料として利用しているから。」その内容に生徒

たちはどのように感じただろうか。その後移動し臨津閣（イムジンガッ）の自由の橋（チャユエタリ）へ。この橋は1953年に朝鮮戦争の休戦協定が締結された後、2万人以上の戦争捕虜たちが「自由万歳」と叫びながらこの橋を渡ってきたことから、この名前がつけられた。橋の近くには1020発に及ぶ生々しい銃痕が残っている蒸気機関車が展示。生徒たちには教科書の一部分でしか認識がなかった朝鮮戦争の傷跡を見学することで、改めて戦争の悲惨な歴史と平和の尊さを強く感じたようである。

午後はソウル市内に戻り、日本人にも良く知られている昌徳宮（チャンドクン）へ移動。この宮殿は1405年、景福宮（キョンボクン）の離宮として創建され、李氏朝鮮時代には正宮として使用していた。近年、韓国民族衣装（ハンボッ）をレンタルし宮殿を見学する観光客が急増。SNSに投稿する目的が大半を占めているようだ。同様に本校参加生徒15名全員（女子生徒）が宮殿近くのハンボッレンタル店でチマチョゴリに着替えタイムスリップした気分、宮殿の構造や色彩、当時の日本には無いオンドル（床下暖房）などを拝観。異文化の遺産を体感し歴史を学んだようである。

第3日目：梨泰院から35km離れた長谷高等学校へ。

本校が初めて訪れる長谷（ジャンゴク）高等学校は京畿道（キョンギド）始興市（シフンシ）にあり、2000年1月開校し現在生徒総人数は802名（男子424名・女子378名）、教職員65名（男性15名・女性51名）規模の学校で養護学校も併設されている。バスを降り生徒達が校門前まで向かうと門柱上方に「歓迎・中央高校」の横断幕が掲げられ、校舎玄関では長谷高校の生徒8名が笑顔で迎えてくれたことに本校生徒は感激し緊張が少し和らいだようである。

歓迎セレモニーでは本校代表生徒が韓国語でスピーチを行い、その後別室で各グループに分かれパクミキョン先生の指導の下、韓国の扇子や印鑑作りを行いながら日本語・韓国語・英語を使い会話するうちに生徒達も表情が和らぎ、最後にはメールアドレスの交換をするほど交流を深めていた。近くにある参鶏湯（サムゲタン）専門店にて長谷高校の職員、生徒と共に昼食をご馳走になり再び懇親を深め、別れを惜しみながらも再会を約束する姿に海外研修の意義を実感した生徒も多くいたはずである。その後ソウル市内に戻り景福宮（キョンボクン）、国立民族博物館を訪れ3日目の行程を終了した。

第4日目：現地大学生との班別研修。

各班員午前9時にホテルロビーに集合し、現地大学生と合流。大学生達も本校生徒も緊張気味であったが計画通り午前9時30分出発。地下鉄を利用し弘大（ホンデ）、梨大（イデ）、光化門（カンファムン）、明洞（ミョンドン）、東大門（トンデムン）の歴史を学び、合わせて近年、韓国で人気のエリアを散策し定刻午後5時ホテルに戻った。大学生と共に研修を積んだ生徒達は皆、充実した体験ができたようである。

第5日目：帰国当日。

この日は午前4時30分ホテルのロビーに荷物をまとめ集合。予定より早く午前4時50分にホテルを出発し、仁川名品館で朝食を済ませ、仁川空港に6時50分到着。入国時の混雑もなく出国審査を終えた生徒達は、研修の疲れを見せることもなく「再度韓国を訪れる。」と長谷高校の各生徒達にメール配信する様子に感慨深いものがあった。

4 参加生徒感想（抜粋）

私は、韓国を訪れるのは2回目ですが、韓国人の優しさに改めて感動しました。1番の目的である高校訪問では、長谷高校の皆さんが校舎内に入った時に日本語のメッセージや日本のキャラクターを描いたボードを持ち、私達を歓迎して下さいました。体験授業ではカタコトでも日本語で話

してくれてとても嬉しく思いましたし、高校生の皆さんに感謝したいと思います。ソウル市内を案内してくれた大学生は、私達が行きたいところを全て地図で調べ詳しく説明してくださいました。今回の研修で、未来の日韓の友好関係にほんの少し貢献できたのではないかと思います。(2年女子)

学校訪問では韓国の学生と交流して、お互いの国の言葉を使いながら楽しく会話することができました。本当に良い経験になったと思います。昌徳宮や景福宮など世界遺産の観光地にも行き、韓国の歴史について学ぶこともできました。昌徳宮ではチマチョゴリを着られたことは貴重な経験になりました。今回の研修を通してたくさんの経験と韓国の歴史を学べたことを、今後の生活に活かしていきたいと思います。(2年女子)

私は研修に参加する前日まで緊張して、翌日不安を大きく抱えたまま飛行機に乗った。その不安は、忘れ物をしていないかなどの小さな悩みなどではなく、中央高校の代表として自分がしっかり学んでこられるかという悩みであった。だが、訪韓して私なりにたくさんの文化・風習の違いを学ぶことができ、家族や友人にも自信をもって体験した内容を説明できるほど充実した経験だった。私は日韓だけでなく世界平和に貢献できるよう努めていきたい。(1年女子)

最初は不安でキャンセルしようかなとも考えました。でも、行ってみるとその不安が全て吹き飛ばすほど楽しく充実した研修で、最終日が近づく頃には日本に戻りたくない気持ちで心がいっぱいになりました。韓国で強く印象に残ったのは「統一展望台と自由の橋」です。この場所は戦争の爪痕が強く残っていました。家族が離散し、大切な人が殺されてしまうことなどガイドさんの話を聞いて戦争の悲惨さを改めて知ることができました。二度とこのような悲劇を起こしてはならないと本当に思いました。反日感情や言葉の不安はありましたが、出会った人達がとても親切で優しくして下さったことで不安は無くなり、再び韓国を訪れたい気持ちでいっぱいです。(1年女子)

5 最後に

韓国研修も第4回を迎えた。日韓関係が徴用工やレーザー照射、さらに未解決とする従軍慰安婦問題等を抱え、参加する生徒達や周りの知人からも不安視する声が多数あるなかでの出発となったが、現地で生徒達を優しく迎えてくれたガイドのソボンヒさんや長谷高校の生徒達に出会い、その印象は一蹴された。それは、研修参加生徒のほとんどが、現在でも韓国の生徒達とメールで親睦を深めていることから分かる。国際交流をきっかけにスモールステップを継続し、見聞を広げてくれることを期待したい。



(昌徳宮にて)



(長谷高校にて)